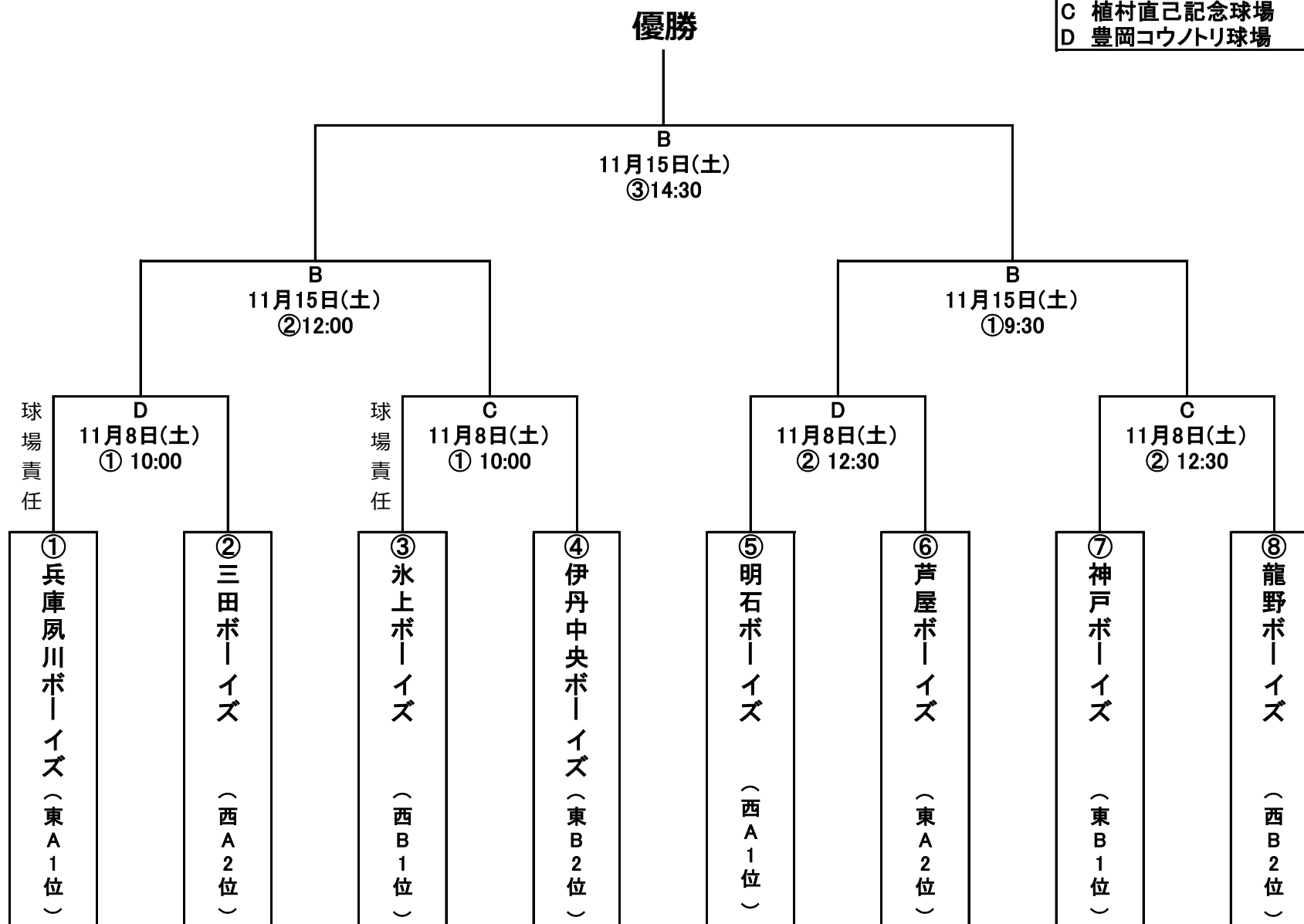


2025 兵庫県東西支部3年生親善大会 要項

- ① 支部予選と同じ要領で審査等も行いますので審査証の忘れなどないようにお願いします。
- ② 決勝トーナメント進出各チームには東支部 東IT委員長から大会への招待の連絡があります。
選手、指導者の登録を完了して登録役員・選手名簿を球場責任者に当日に提出してください。
- ③ 8日(土)各球場の球場責任チームについては第1試合1塁側チーム(組合せの若番号)でお願いします。
(お弁当、飲み物等の準備をお願いいたします。)
- ④ 審判については支部審判で行いますのでBL3は必要ありません。
- ⑤ 試合運営(アナウンス、SBO、記録、球数等)については当該チームでお願いします。
- ⑥ 大会参加費 2万5千円(大会運営費になりますので千円札25枚にして支部役員に渡して下さい)
- ⑦ 各球場の第2試合の勝ち上がりチームが参加費の残金、ボール、各報告書を持ち帰って
いただき 15日の明石トーカロ球場に持参して下さい。
- ⑧ 8日(土)の各球場役員集合時間 8時30分
- ⑨ 15日(土)の球場責任チームについては初日の試合結果を確認して責任チームを指名させていただきますので 宜しくお願いいたします。

兵庫県東西支部3年生親善大会組合せ

A 出石球場
B 明石トーカロ球場
C 植村直己記念球場
D 豊岡コウノトリ球場



兵庫県支部3年生親善大会大会規定

- 1, チームの登録選手 中学3年生、11名以上とする。
- 2, 出場選手はその大会の登録締め切り日現在連盟へ登録済みの者に限る。
- 3, 審査表は当年度発行のものとする。
- 4, オーダー表記人選手およびチーム責任者、登録された監督、コーチ、マネージャーのみベンチに入ることができる。
但し、各種登録証(チーム責任者、監督、コーチ)および審査証(選手)を携帯していない場合は、いかなる理由でもベンチに入れないが、チーム責任者、監督、コーチは試合時間までに間にあった場合は、審査の上ベンチ入りできる。また、選手は試合終了までに間にあった場合は、審査の上その時点でベンチ入りできる。なおチーム責任者は必ずベンチに入らなければならない。チーム責任者が不在の場合は試合ができない。
- 5, 組合せの若番号が1塁側のベンチ、後番号が3塁側のベンチに入る。ただし、チーム責任者、監督、コーチは登録書を携帯すること。
- 6, 監督(背番号60)、コーチ(背番号50)は選手と同じユニホームを着用すること。
- 7, 試合開始時刻60分前までに試合球場に到着し、直ちにオーダー表5部、必要に応じ投球数記録表3部を大会本部に提出の上、所定の審査を受けなければならない。
- 8, オーダー表交換時に両キャプテンにより、先攻、後攻をジャンケンで決める。
- 9, 試合開始予定時刻までにチームがグラウンドに現れない時には、球場責任者と責任審判が協議して、没収試合を宣言することができる。
- 10, 試合方法など
 - (1) 各試合は7回戦で行い、4回終了をもって正式試合とする。試合成立後は試合開始から2時間(決勝戦2時間)を超えた場合、新しいイニングに入らない(後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は後攻チームが攻撃中でも規定時間になれば、その時点で試合を終了する)。また、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能になった場合、野球規則7.01(4)により勝敗を決する。同点の場合は最終回時点で出場したメンバー全員の抽選とする。試合成立前に、上記理由により試合続行が不可能になった場合は、サスペンデットとする。
 - (2) 4回終了後(後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は、4回終了時)10点差、5回以降7点差の場合、コールドゲームとする。
 - (3) 7回終了後、同点の場合延長戦に入らず、また試合開始から2時間(決勝戦2時間)を超えた場合も新しいイニングには入らない(どちらか早い方を適用)。その後はタイブレーク方式を実施する。(競技に関する特別規則「タイブレーク実施細則」参照)
- 11, 本大会の投手投球制限は“投球数”制限を採用する。
詳細は後述の投手制限ガイドライン、または連盟HPの投球制限ガイドラインを確認
- 12, (1) 監督またはコーチの指示、伝達は1試合で攻撃2回と守備2回の計4回とする。延長またはタイブレークに入った場合は、それぞれ1回の指示、伝達を認める。(選手の怪我や交代などの指示、伝達は指示に入らない)
(2) 守備側の投手に対する指示は、伝達が3回目となれば、自動的に投手は交代となる。その投手は他の守備位置についてもよいが、再び投手として登板することはできない。
(3) 内野手が2人以上投手のところに行った時も、1回に数える。
(4) 指示、伝達は審判がタイム宣告してから「30秒以内」とする。
- 13, 1イニングで同一の投手に対しての指示、伝達が2回目となれば、自動的に投手の交代となる。その投手は守備位置につくことができるが、同一イニングでは投手としては登板することはできない。ただし、新しいイニングに入れば、再び投手として登板することができる。
- 14, 審判員に対する抗議は認めない。ただし、ルールの適用についての確認は認める。
- 15, 監督またはコーチが投手に指示などをするとき、マウンドのところで行うこと。(ベンチから駆け足で)
- 16, 2塁走者やベースコーチなどが捕手のサインを盗んで、打者にコースや種類を伝える行為を禁止する。
- 17, ボール回しをするときは一回りとし、最終野手はその位置から返球する。また、打者が攻撃を継続中、塁上で走者がアウトになった場合のボール回しを禁止する。
- 18, 投手は走者をアウトにする意志がないのに、無用なけん制球を繰り返すこか、または送球するまねを何回も繰り返す行為は、試合のスピーディーな進行の妨げになるため禁止する。
- 19, 各チームは同色のヘルメット7個以上(合同チームを除く)、捕手の規定防具【マスク・捕手用ヘルメット・プロテクター・レガース・スロットガード・ファウルカップ(一体型捕手マスクの場合はヘルメット・スロットガードを除く)】2組を備えること。
- 20, ユニホーム、バット、ボール、スパイク、クラブ等は連盟指定業者のものに限る。
- 21, 捕手は必ずヘルメットならびに規定防具を試合、練習を問わず着用すること。
- 22, 試合前のシートノックは原則として5分間行うが、当該球場のグラウンド状況や試合終了時間を勘案して、シートノックを行うか否かは球場責任者が決定するものとする。

備 考

野球規則7.01(4)

7.02(a)によりサスペンデットゲームにならない限り、コールドゲームは、審判が打ち切りを命じた時は終了し、その勝敗はその際の両チームの総得点により決する。

【注】我が国では、正式試合となった後のある回の途中で球審がコールドゲームを宣したとき、次に該当する場合は、サスペンデットゲームとしないで、両チームが完了した最終均等回の総得点でその試合の勝敗を決することとする。

- (1) ビジティングチームがその回の表で得点してホームチームの等しくなったが、表の攻撃が終わらないうち、または裏の攻撃が始まらないうち、あるいは裏の攻撃が始まってもホームチームが得点しないうちにコールドゲームが宣せられた場合。
- (2) ビジティングチームがその回の表でリードを奪う得点を記録したが、表の攻撃が終わらないうち、または裏の攻撃が始まらないうち、あるいは裏の攻撃が始まってもホームチームが同点またはリードを奪い返す得点を記録しないうちにコールドゲームを宣せられた場合。

【タイブレーク実施細則】

(1) 特別規則

- (イ) 中学生の部は7回終了あるいは試合開始2時間を超えて(いずれか早い方)、決勝戦は7回あるいは2時間を超えて(いずれか早い方)、両チームの得点が等しいとき、以降の回の攻撃は、一死走者満塁の状態から行うものとする。
- (ロ) 打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打順の者とする。
- (ハ) この場合の走者は、前項による打者の前の打順のものが一塁走者、一塁走者の前の打順の者が二塁走者、そして二塁走者の前の打順の者が三塁走者となる。
- (ニ) この場合の代打および代走は認める。

(2) チームおよび個人記録

チームおよび個人記録は公式記録とするが、以下に揚げた事項に留意すること。

- (イ) 投手記録
 - ・規定により出塁した3走者は、投手の自責点としない。
 - ・完全試合は認めない。
 - ・無安打、無得点試合は認める。
- (ロ) 打撃成績
 - ・規定により出塁した3走者の出塁記録はないものとする。ただし、盗塁、盗塁刺、得点、残塁などは記録する。
 - ・規定により出塁した3走者を絡めた得点、併殺打などは全て記録する。

野球用品は、すべて連盟指定業者のものを使用することが義務けられています。

「中学生投手の投球制限統一ガイドライン」適用例

	第一日目	第二日目	第三日目	第四日目	第五日目	第六日目	備 考
投手A	80	0	80	0	80	0	80球を投げた翌日には登板していないため、翌々日には80球投球できる。 (打者終了時に80球を超えても、1試合の最大カウント数は80球)
投手B	80	40	休		0	80	一日目80球、二日目40球で連続する2日間で120球となるため、三日目は投手・捕手としての出場はできない。(※また、2日間で80球を超えているので三日目は捕手としての出場できない規定もある。投手D参照)
投手C	40	40	35	休	80	40	3日間連続40球以内であれば登板可能。ただし球数の関わらず3日間連続登板した場合は、四日目は投手・捕手として出場できない。 四日目が休みだったので、五日目は80球、六日目40球の投球は可能。
投手D	40	45	休	30	60	休	一、二日目で80球を超えたため、三日目は投手・捕手として出場できない。四、五日目で連続する2日間で80球を超えていないため、六日目の3日間連続登板および捕手として出場できない。
投手E	40	40 40	休	80	0 40	休	一、二日目40球以内の3連投をしているため、三日目は投手・捕手として出場できない。四日目は80球のため五日目は投球した時点から1試合目に登板していなくても連続2日間で80球を超えるため六日目は投手・捕手として出場できない。
投手F	30 50	休 ※捕手可	40 40	40	休	80	ダブルヘッダーで80球以内であっても、どちらかの試合で40球を超えた場合は、3連投できないが、※連続した2日間で80球以内なので、翌日は捕手として出場できる。 第3日目からの3連投は40球以内なので可能であるが、3連投した投手は捕手としての出場できない。

「小学生投手の投球制限統一ガイドライン」適用例

	第一日目	第二日目	第三日目	第四日目	第五日目	第六日目	備 考
投手A	65	0	65	0	65	0	65球を投げた翌日には登板していないため、翌々日には65球投球できる。 (打者終了時に65球を超えても、1試合の最大カウント数は80球)
投手B	65	40	休	65	0	65	一日目65球、二日目40球で連続する2日間で105球となるため、三日目は登板できない。
投手C	40	25	40	休	65	40	40球以内で連続する2日間で65球以内であれば3日間連続登板可能。ただし球数に関わらず3日間連続登板した場合は、四日目は登板できない。 四日目が休みだったので、五日目は65球、六日目40球の投球可能。
投手D	40	30	休	15	50	休	一、二日目で65球を超えたため、三日目は登板できない。 四、五日目は65球以内だが、五日目で40球を超えているため、六日目の3日間連続登板できない。
投手E	65 休	40	休	休 40	65	休	小学生の部はダブルヘッダーの場合、どちらかの試合しか登板できない。 登板した翌日は105球まで投球可能。翌々日は登板できない。
投手F	65	40 休	休	40	25 休	40	一日目65球、二日目1試合目は40球までで、二日目2試合目と三日目は登板できない。四日目と五日目1試合目で65球以内であれば、五日目2試合目は登板できないが、六日目は40球までは投球できる。

【小学生・中学生 共通事項】

※打席の途中で制限数がきた場合は当該打者の打席終了までは投球を認める。制限数を超過した球数は投球数にカウントしない。

※数字は投球数。「休」は投手・捕手として出場できない日。(小学生は捕手の出場は可「0」は登板しなかった試合。

※指導者は、公式戦だけでなく、練習試合も対象になっていることを認識する。